

性格特性が社会的促進・抑制に及ぼす影響

The effect of personality trait on social facilitation and inhibition

1K04A0027-1

岩田 博文

指導教員

主査 山崎勝男先生

副査 堀野博幸先生

目的

スポーツにおいて観客の存在から受ける影響は、時にパフォーマンスに著しく影響を与える。他者の存在によってパフォーマンスが低下する場合もあれば、他者が存在する時にプレッシャーをやる気に転換する者もいる。このように、社会的促進・抑制と性格は深い関係があり、観察者の存在がある環境とない環境では、パフォーマンスが異なると考えられる。しかしながら、社会的促進・抑制と性格の関係について調べられた研究は少ない。

そこで、本研究では Sanders(1981)の注意のコンフリクト仮説と Jones & Gerard(1976)の注意散漫仮説に注目し、観察者の存在が個人のパフォーマンスにどのような影響を与えるかについて、ボール投げ標的当て課題を用い、性格特性との関係を調べた。

方法

被験者:

健康な男女 22 名(男性 17 人, 女性 5 人, 平均年齢 26.1±11.9 歳)であった。

刺激と課題:

標的にボールを投げ、的中位置により得点化する課題を用いた。標的は、青色部分の円(直径 16.5 cm)を 10 点とし、その周囲の黄色部分の円(黄色円直径 27 cm)を 5 点、ボードの白色部分(150 cm×30 cm)を 1 点とした。また、標的の中心位置は高さ 116.5 cm とした。

被験者は観察者がいない環境(単独条件)と、観察者がいる環境(複数条件)でボール投げ標的当て課題を遂行した。

手続き:

被験者は、他者が存在しない状態で標的当てを 20 球(単独条件)、他者が存在する状態で標的当てを 20 球(複数条件)行った。課題終了後、被験者には質問紙(NEO-FFI 人格検査)と、課題遂行中の集中、緊張、快不快について 7 段階得点で質問したアンケートを実施し採点した。

分析方法:

ボール投げ標的当て課題は、標的的中数を得点化したパフォーマンス結果を被験者毎に集計し、平均値を算出した。単独条件、複数条件の平均値について対応のある t 検定を行った。また、被験者の NEO-FFI の各項目(N:神経症傾向, E:外向性, O:開

放性, A:調和性, C:誠実性)得点結果とパフォーマンス結果について相関分析を行った。また、アンケートは各項目を集計し、平均値について対応のある t 検定を行った。

結果

単独条件、複数条件間の相関係数を表 1 に示した。NEO-FFI の N 項目と単独条件は正の相関があった。そのため、神経症傾向が高い被験者のほうが、標的課題の単独条件において得点が上がった($r=.43, p<.05$)。また、NEO-FFI の A 項目と単独条件は負の相関があった。そのため、調和性が高い被験者のほうが、単独条件において、標的課題の得点が下がった($r=-.47, p<.05$)。

アンケートは、集中項目で単独条件の方が複数条件よりも得点が高かった($t(21)=2.20, p<.05$)。そのため、単独条件の方が複数条件よりも集中できたことがわかった。緊張項目については、単独条件の方が複数条件よりも得点が低かった($t(21)=2.37, p<.05$)。そのため、単独条件の方が複数条件よりも緊張がなかったことがわかった。

表 1 NEO-FFI と単独条件・複数条件の相関係数表

	相関係数					単独条件	複数条件
	N	E	O	A	C		
N	1	-.460*	.115	-.437*	-.044	.431*	.126
		.031	.610	.042	.845	.045	.577
	N	22	22	22	22	22	22
E		1	-.142	.764**	-.330	-.391	-.188
		.031	.529	.000	.134	.072	.408
	N	22	22	22	22	22	22
O		.115	1	.198	-.411	-.355	-.366
		.610	.529	.378	.057	.105	.094
	N	22	22	22	22	22	22
A		-.437*	.764**	1	-.247	-.474**	-.267
		.042	.000	.378	.267	.026	.229
	N	22	22	22	22	22	22
C		-.044	-.330	-.411	1	.095	.225
		.845	.134	.057	.267	.873	.315
	N	22	22	22	22	22	22
単独条件		.431*	-.391	-.355	-.474**	.095	.681**
		.045	.072	.105	.026	.673	.000
	N	22	22	22	22	22	22
複数条件		.126	-.186	-.366	-.267	.225	.681**
		.577	.408	.094	.229	.315	.000
	N	22	22	22	22	22	22

*. 相関係数は 5% 水準で有意(両側)です。
**. 相関係数は 1% 水準で有意(両側)です。

考察

本研究では、性格特性が社会的促進・抑制に及ぼす影響を調べた。観察者有無の環境を設定し、ボール投げ標的当て課題のパフォーマンスを調べた結果、個人の性格特性とボール投げ標的当て課題遂行におけるパフォーマンス結果に相関が認められた。